

現在、全国30カ所で事業を運営。  
 さまざまな疾患を持つ方にご入居いただいております。

※2023年6月時点

北海道・東北エリア

北海道 ReHOPE 札幌北  
 ReHOPE 札幌厚別  
 宮城 ReHOPE 仙台青葉  
 福島 ReHOPE 郡山

関東エリア

東京 ReHOPE 墨田  
 ReHOPE 町田相原  
 千葉 ReHOPE 南柏  
 ReHOPE 西船橋  
 ReHOPE 新検見川  
 ReHOPE 柏南増尾  
 ReHOPE 松戸  
 神奈川 ReHOPE 橋本  
 ReHOPE 鷺沼  
 ReHOPE 保土ヶ谷  
 ReHOPE 伊勢原  
 ReHOPE 東戸塚  
 ReHOPE 秦野  
 輝の杜  
 埼玉 ReHOPE 上尾  
 群馬 ReHOPE 高崎

東海エリア

愛知 ReHOPE 新栄東館  
 ReHOPE 新栄西館  
 ReHOPE 星ヶ丘  
 岐阜 ReHOPE 多治見  
 静岡 ReHOPE 静岡葵  
 ReHOPE 駿河西

関西エリア

大阪 ReHOPE 吹田  
 ReHOPE 御殿山北館  
 ReHOPE 御殿山南館  
 ReHOPE 堺北

2023年開設予定

埼玉 ReHOPE 浦和美園(7月開設予定)  
 奈良 ReHOPE 奈良(9月開設予定)  
 愛知 ReHOPE 岡崎(11月開設予定)  
 宮城 ReHOPE 仙台若林(12月開設予定)  
 兵庫 ReHOPE 神戸(12月開設予定)

会社概要

社名 株式会社シーユーシー・ホスピス  
 設立 平成29年3月  
 役員 代表取締役会長 濱口慶太 代表取締役社長 井上正明 取締役Founder 吉田豊美  
 資本金 1億円(資本準備金含む)  
 事業内容 訪問看護事業所運営、訪問介護事業所運営  
 在宅ホスピス事業運営、看護コンサルティング  
 取引金融機関 三菱UFJ銀行  
 関連会社 エムスリー株式会社  
 株式会社シーユーシー  
 ソフィアメディ株式会社  
 株式会社シーユーシー・フーズ など  
 所在地 東京都港区芝浦3丁目1-1 msb Tamachi 田町ステーションタワーN 15階

お問い合わせはこちら

☎0120-333-527 9:00~18:00



左の二次元コードを読み取ると  
 24時間受付可能な  
 お問い合わせページに  
 アクセスできます



ここに、  
 らしく生きる、  
 ホスピスがある。

看護と介護でよりそう家

ReHOPE

私たちは、あきらめない。

重度の病や障がいにより生きる場所を見失いそうなすべての人にひらかれた場であることを。

自分らしく生きたいという尊厳を大切にしあらゆる可能性を探り、叶えていくことを。

ホスピスが、希望がふたたび生まれる場になることを。

「やりたい」という  
想いに叶える方法を。

日々の願いから、諦めていた挑戦まで、知恵を絞り安全を確保しながらご入居者さまの「やりたい」を最大限に実現します。

ご入居者さまへの約束

看護と介護の力で  
あたりまえの日常を。

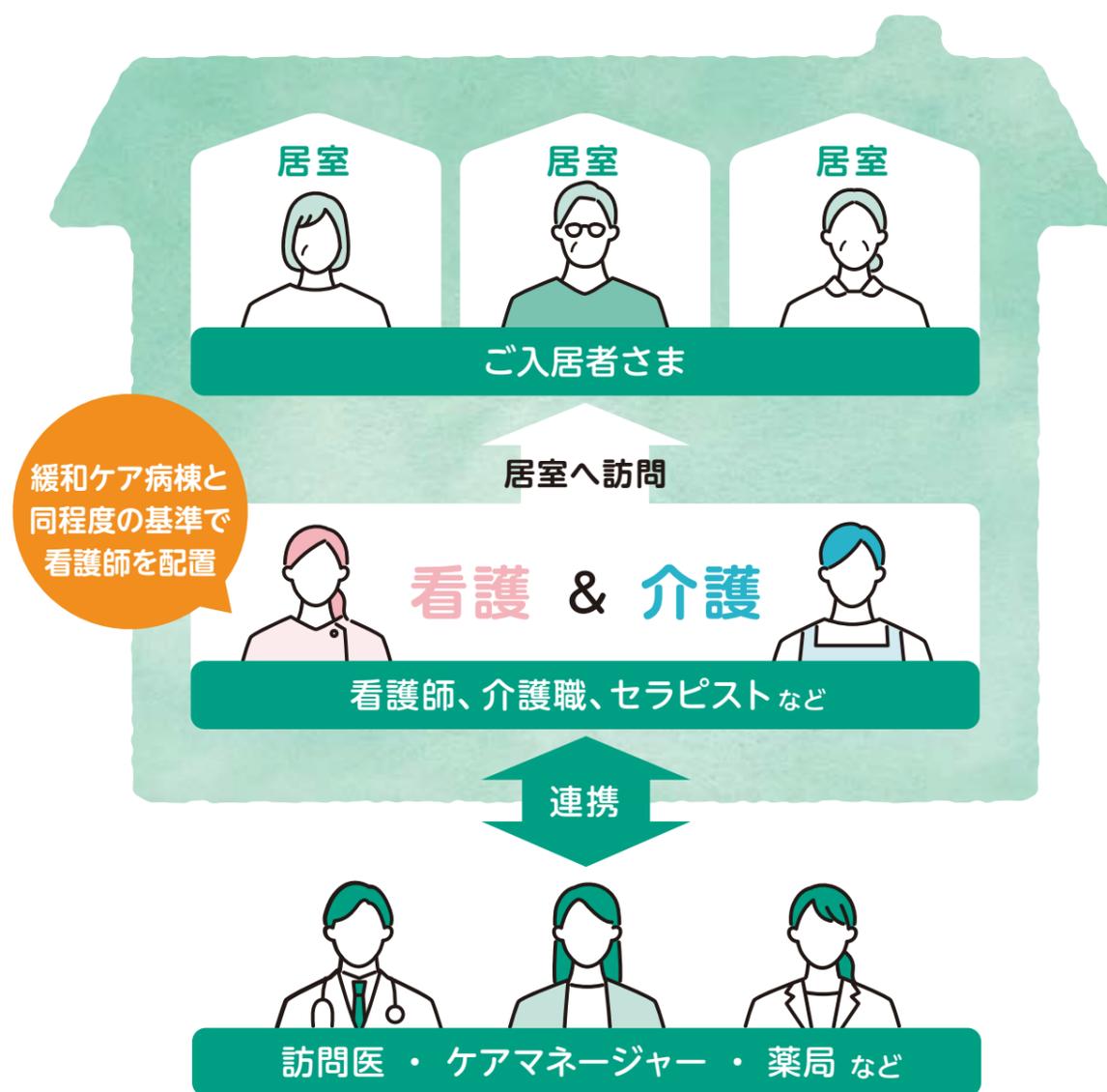
全国で末期がんや神経難病のケアを行ってきた経験に基づき、医療という土台のうえで、安心できる暮らしを叶えます。

心によりそい  
納得できる選択を。

ご入居者さまの「これからどう生きたいか」を尊重し、心によりそった医療処置やケアの選択肢をご提示します。

## ReHOPEでは、看護師・介護職による 24時間365日のケア体制で 安心して生活をお送りいただけます。

当施設は末期がんや難病の方のための住宅です。ご入居者さまの入浴や排泄、食事等の日常のサポートはもちろん、看護師、介護職による24時間365日のケアを受けられます。また、緩和ケア病棟と同程度の基準で看護師を配置しており盤石な療養環境を整えています。



お看取り実績、がんのご入居者さま 1,989名、難病のご入居者さま 466名<sup>※</sup>  
看取りのプロフェッショナルとして、利用者さまやご家族が最期までその人らしく、快適な生活が送れるようサポートしてまいります。  
※2023年4月末日時点

※サービスの提供体制は各施設によって異なる場合がございます。詳しくはお問い合わせください。

# がんのご入居者さま2,261名、難病のご入居者さま975名、

これまで多くのご入居者さまに対応した実績と豊富な知識で、幅広い疾患に対応しています。

※2023年4月末日までの累計：3,649名（がん・難病・その他のご入居者さまを含む）

## ご入居いただける対象の方

末期の悪性腫瘍（末期がん）	
多発性硬化症	重症筋無力症
スモン	筋委縮性側索硬化症（ALS）
脊髄小脳変性症	ハンチントン病
進行性筋ジストロフィー症	プリオン病
パーキンソン病関連疾患 進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、及びパーキンソン病 （ホーエン・ヤールの重症度分類がステージ3以上であって生活機能障害度がⅡ度又はⅢ度のもの）	
多系統萎縮症（線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群）	
亜急性硬化性全脳炎	ライソゾーム病
副腎白質ジストロフィー	脊髄性筋委縮症
球脊髄性筋委縮症	慢性炎症性脱髄性多発神経炎
後天性免疫不全症候群	頸髄損傷
人工呼吸器を使用している状態	気管カニューレを挿入しているかた

※施設によってご入居いただける対象の疾患が異なる場合がございます。  
また、上記にない症状でも受け入れが可能な場合もございますので詳しくはお問い合わせください。

# 多くの方にご入居いただいた実績があります。

## 対応可能な医療処置と疾患



麻薬管理・疼痛管理・神経ブロック



人工呼吸器・NPPV（バイパップなど）  
TPPV



静脈点滴・皮下点滴



痰吸引

在宅酸素	気管切開
中心静脈栄養（ポート・カテーテル）	経管栄養 （胃ろう・経鼻・腸ろう・経皮経食道胃管）
血糖チェック・インスリン注射	人工肛門・腎ろう 膀胱ろう・小腸ろう
導尿・膀胱留置カテーテル 膀胱洗浄・持続膀胱洗浄	褥瘡処置・創傷処置
ドレナージ・腹水・胸水	腹膜透析
輸血	認知症・アルツハイマー病
感染症・MRSA・C型肝炎・B型肝炎・梅毒・HIV・結核（排菌なし）	

※施設によって対応可能な医療処置が異なる場合がございます。

## 「ReHOPE」で叶えた、ご入居者さまの希望

様々な疾患を抱えながらも、日々の豊かさや生きることの喜びを感じていただきたい。そんな思いを大切に「ReHOPE」で、実際にご入居さまと施設スタッフが力を合わせて希望を叶えたエピソードをご紹介します。

### 女子会イベントから生まれた ご入居さま同士のつながり

Yさん（80代）

左乳癌末期・肺転移

Yさんは、ご入居された時から声も大きく活発な方。当初はお正月を迎えられないかもしれないと言われていましたが、無事新年を迎えられ当施設の新年会も参加することができました。

しかし、だんだんと車椅子でトイレへ行けなくなり、お部屋で過ごす時間が長くなったYさん。ある日ポツリと、「ここは何も楽しいことがないのかい。前にみんなで集まったよね」と、新年会の時のことをお話しされました。実はYさん、かつて民謡の先生をされていたこともあり、多くの人と関りがあつたとご家族からもお聞きしていました。きっと、たくさんのお友達と楽しくお喋りしながらここの時間を過ごされたいのだろう、そんなYさんのご希望が伝わってきました。そこで、何かできることはないかと考え、当施設のダイニングでコーヒーを飲みながら入居者の方たちとお喋りできる場を提供してみよう!という話しになり、「女子会」を開催することになりました。

当日はリクライニングの車椅子に乗って頂き、コーヒーを飲みながらきつとお話しに花が咲くはず、と考えYさんと同階の女性4人をお誘いしました。すると…お話しに花が咲くどころか宴が始まり、ついに結婚式で花嫁に捧げる歌まで披露してくれたYさん。この時の女子会のことは思い出しては「楽しかったなあ」といつもお話しされています。

これをきっかけにYさんのお部屋には、たくさんのお友達が訪れるようになりました。女子会に参加した方はもちろん、後からご入居された方も噂を聞きつけ「歌を聞かせて」と訪れたり。

場所や環境は変わっても、かつてのように、たくさんの人とつながりYさんらしく今を過ごされています。



### 最愛の孫たちに 今できる最高の手作りプレゼント

Aさん（70代）

大脳皮質基底核変性症

Aさんは大脳皮質基底核変性症により2022年1月に入居されました。入居時より食思不良があり、「長生きはしたくない」と生きる気力もない状態でした。

そんなある日、Aさんがお孫さまに手作りのフェルトのお守りをもらった、と嬉しそうにお話してくださいましたので、「だったらお守りのお礼に、何か作ってみませんか?」と尋ねてみました。ちょうど、ひな祭りの前だったこともあり、フェルトで作る吊るし雛が良いのでは?とご提案してみましたが、「手が思うように動かないからできないよ」と始めは乗り気ではありませんでした。そこで、Aさんができる範囲の作業で完成する作り方をご紹介してみたところ、いつの間にか吊るし雛を完成させて、「できたよ」と私たちにを見せてくれました。

Aさんのお孫さまは年子で、いつも弟が姉の真似をしているという話を聞き、今度は端午の節句に吊るし飾りを作ろうというお話で盛り上がりましたが、筋肉の緊張や全身の痛みが強くなるなど症状は進行。「いつこの前みたいになるかわからない。手もどんどん動かなくなっていく」と、状態の変化に不安を感じている様子でした。

そこで、吊るし雛をと一緒に節句の飾りも渡しましょう!となり、Aさんは2つを作り上げお孫さまたちにプレゼントされました。さらに、5月に迎えるというお孫さまの誕生日には、アイスの形をした石鱈作りにチャレンジしたいと未来に向けた前向きな言葉が聞かれるようになりました。

「次の誕生日には何を贈ろうか」—  
お孫さまを通じた少し先への希望がAさんの元気の源です。

